

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201593		
法人名	社会福祉法人 豊心会		
事業所名	和幸苑グループホームあゆみ		
所在地	大分県別府市亀川東町20番16号		
自己評価作成日	R2.12	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食事業所で食事を作り提供しています。その日に利用者と話をして食べたいもののリクエストを聞いたり、畑でできた野菜を収穫し食材として活用し、食べる楽しみを持ってもらうようにしています。自治会に所属しており、自治会の行事に参加したり災害時の協力体制などの作っています。主治医との連携により、利用者の健康管理や、症状に合わせての受診の援助なども行っています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・3食とも手作りの食事を提供しているので、下ごしらえや準備も利用者とともに出来る。
- ・敷地内に畑を設け、利用者とともに野菜を栽培し、収穫した野菜が食卓にあがる。
- ・自治会や地域との連携が構築され、災害時や緊急時に協力が得られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が身近なものになるように常に目の届くところに理念を貼り、職員間での理念の共有や支援の意識づけになるように努めている	グループホーム独自の理念を掲げ、目につくところに掲示し、個々の尊重、地域に密着など、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との防災訓練や行事の参加したり、保育園児や地区の美容師さんに定期的な訪問を受けたりする関係を続けていたが、R2年に入りコロナによる影響で、現在は出来ていない。	自治会長の協力のもと、地域の商店街の祭り、防災訓練などに参加していたが、今年度は新型コロナ感染予防のため行えていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際にいる利用者さんの認知症場を説明したり協力をどこで得られるのかなど、推進会議を通じて地域に配信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度のペースで推進会議を開催。家族の参加は、難しくなっているが利用者・自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員・市役所職員も参加し、地域に関して情報交換を行っている	一度だけ感染予防のため紙面での開催となったが災害時の避難訓練や、備蓄について話し合われた。また、地域の活性化についての話も出た。コロナ禍で家族の参加は難しくなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所高齢者福祉課職員が推進会議に参加してくれている。利用者の状況や、ヒヤリハット事故報告などや地域にある問題も含めてなじみの関係ができており、介護保険の相談もスムーズに行うことができている	市の担当者には、運営推進会議の他に、介護保険制度や福祉用具買入れなどで相談するなど協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で意識し、玄関の施錠や身体拘束は行っていない。外出傾向の利用者も無理に静ませず気分転換や気晴らしに、ベランダに出たりして自由に過ごせるよう支援・見守りを行っている	職員は何が身体拘束に値するのかを理解しており、万が一安全のためやむおえない時は、家族にきちんと説明をして許可を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	別府市グループホーム連絡協議会などの研修に参加し勉強もしている。		

事業者名:和幸苑グループホームあゆみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度などを必要とする利用者さんはいないがグループホーム連絡協議会などの研修に参加し、必要な時に支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明を行い、利用者や家族に不安や疑問点にこたえられるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族には近況報告を行っている。R2年は、コロナ渦中にて、面会制限を実施しているため、電話による状況報告とともに家族の細やかな意見や、要望を聞くようにし、利用者支援に生かしている	面会制限のある中、電話をかけたたり、定期的に写真を送るなどし、意見や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者支援や業務の連携がスムーズに行えるよう連絡なノートを作成し、都度個別に職員の意見が聞ける機会を持ち、業務に反映できるようにしている	昼食時や夜勤時などに意見や提案を聞くようにしている。希望の休みを取りたい、職員を増やして欲しいなどの要望があり、実現できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心のある職員に対して、資格取得のための推奨を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修や、試験など支障なく受けられるように配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度、別府市グループホーム連絡協議会の研修に参加し、他事業所の職員との交流を図っている。また、月に1度のオレンジカフェにも参加していたが、コロナの影響で、R2年は取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人の話やなじみの関係になれる機会を持ち、家族だけでなく本人からも話が聞けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時より時間をかけ話を聞き、不安や求めるものを理解しくみ取ることができるよう努め、そうした中で信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけ話を聞くように心がけ必要としているサービスかどうか見極め、必要時は包括支援センターにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である意識を職員が共有し、互いに協働しながら穏やかに生活できるよう場面づくりや関わりを持つようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のあるがままの状況を把握し、それを家族に伝えそこから家族の思いに耳を傾け、本人を支えていく為の共同関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でも、知人や親せきに気軽に面会できるような体制を取っているが、R2年はコロナの影響で面会禁止の期間が多いため手紙や電話等いつでも外部との連絡が取れるように支援に努めている。	コロナ禍で面会制限のある中、電話や手紙、写真を送付したり、Web面会も出来るようにし、馴染みの関係を途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分で、日々変化している様子に注意を向け、利用者同士の関係が円滑になるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の施設に入居された方は、行事などの際にも面会に行っている。入院先での死去でサービスが終了した利用者家族からも、介護の相談が寄せられることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で把握に努めているが、意思の疎通が難しくなった利用者には家族や関係者から情報を得たり、同性の親族から同性特有の思いや意思を聞き取り支援につなげられるように努めている	職員と居室での会話や、日々のかかわりの中での表情で意向や思いを把握している。職員には伝達ノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅に訪問したり、本人・家族から聞き取るようにしている。又、折に触れ本人や家族からどのような生活をしていたかを聴取するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムをつかめるように努め、本人のできることやわかることの把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを含め、担当職員が中心となって把握し本人が自分らしく暮らすことができるのかを念頭に置き、本人ができることは継続し本人の自信につながるように介護計画作成に努めている	1か月に1回モニタリングを行い、担当職員や家族の意向も踏まえ見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分摂取量、排泄チェック、身体状況や日々の暮らしのありのままを記録している。また、職員が確認できるよう情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の中のニーズも含めて、本人や家族から言いやすい関係づくりに努め、実行に移せるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園の慰問や福祉学科の学生のボランティアの受け入れられるような体制を作っているが、R2年はコロナの影響で支援できずにいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医に受診している。家族の意向により職員が受診に付き添い介助を行い連携をとっている	家族や本人の希望するかかりつけ医となっている。月2回の訪問診療も受けられるが、家族が希望する受診には職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行いかかりつけ医・看護師に連絡・報告し連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、病状や状態・食欲などを聞き家族が受けた医師からの説明も聞きながら、退院の相談を行っている。定期的に主治医にも報告している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為には制限があるが、本人や家族の意向を聴きながら主治医と相談し、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には家族の意向を踏まえ、医師とも連携を密にし話し合いを行いながら希望に沿うよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、対応できるようにしている。又、かかりつけ医にすぐに相談できるような関係を築いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回ほど防災訓練を行い、避難体制の見直しや検討を行っている。亀川地区の防災訓練にも参加し、事業所職員が地区の防災士として活動している	防災訓練は地域の協力もあり、火災に限らず、津波や水害を想定して訓練を行っている。避難場所は敷地内の法人施設であり、昨年実際に台風時に避難した経験を活かした訓練となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定を尊重し、日々の生活の中で食事入浴の希望などやレクリエーションの参加の有無など本人が自分の希望を言いやすい声掛けや支援を行うよう心掛けている	一人ひとりの人格を尊重し、名前の呼び方も希望に沿うよう支援するなど、誇りやプライバシーを損ねないケアに取り組んでいる。	長期勤務の職員が多く、何事にも精通していると思うが、今後色々な分野での研修を行うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表せるよう声掛けや促し、傾聴を行い、自己決定ができるように働きかけている。また、意思疎通が難しい方には、表情から読み取るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操など体を動かすことや、フロアで過ごす・自室で過ごす等利用者に応じて好きな場所で過ごせるよう声掛けし実施している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お風呂の準備をする際着たい服を持ってきてもらったり、清潔が保持できるように支援している。また、選べない方に関しては同じ服装にならないよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	午後からゆっくり雑談等しながら、「今日は何が食べたい？」と聞いて献立を決めたりすることも少なくない。テーブル拭きや食器拭きも行ってもらったり、料理の下準備を一緒に行ったりしている	3食とも事業所で調理し、献立も利用者と一緒に考えている。収穫した野菜を調理したり下ごしらえを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限などに考慮しながら、ヤクルトや牛乳・カルピス・紅茶やコーヒー等気分を変えてもらいながら水分補給に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じて口腔ケアを実施している。舌の掃除も含めて声掛けしている		

事業者名:和幸苑グループホームあゆみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツでは蒸れて痒くなるため普通の布パンツに尿取りをしたり、尿取りやおムツに関しても定期的に見直し個々の状況にあった物を購入している	排泄パターンを把握し、定期的に誘導して、全員が自室のトイレを利用している。夜間オムツ利用の人も安眠を損なわないよう、時間を見計らって、定期的に変換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状態に合わせて食事形態の変更や水分量のチェック、日々の排便状況のチェックを行い、主治医に報告と相談をし、排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その瞬間の気分によってお風呂に入らない等の訴える方もいるので、一人一人にペースに合わせて入浴するタイミングを決めるようにしている	その日の気分で入りたくない人にもタイミングを見計らい、声掛けをし、利用者同士で入浴したり、一人ひとりの希望に沿うよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の様子を把握し、少しきつそうだったり夜間眠れていない等の把握を行うことで、個々の状況に応じて、居室で横になったりソファで休憩できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週処方される薬の説明書きや、変更になった薬の注意点など、引き継ぎ簿に記入し周知徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状況に合わせて、自宅で行っていたことや得意なことを把握し役割を持ってもらうようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や、外泊、利用者の体調に合わせて、近くの商業施設に行ってお茶をしたり、天気がいい日はドライブに行ったりしているが、R2年はコロナの影響で実施できていない。	コロナ禍で外出がままならない中、歌やかるたなどレクリエーションを多く取り入れている。家族は参加できなかったがクリスマス会も実施した。春には花見に行きたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	公衆電話から電話をできるよう、小銭を所持している利用者もいる。個人の能力に応じてお金を渡したり、預かったりしながら使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置している。うまく使えないときは、職員が支援し、相手が出て話ができるまでセッティングしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はフロアで過ごされる利用者が多く、台所とフロアは対面になっており、音や匂いなど五感を刺激したり気軽に「お茶を頂戴」等行ってこれるような工夫をしている。季節を感じさせるディスプレイや作品作りを行っている	リビングには書初めが貼られており、季節感が感じられる。周りを囲むようにデッキがあり、猫が何匹も遊びに来ている。利用者はそれをゆったり眺めながらソファでくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには共同で使えるソファなどを配置している。そこから離れた場所に椅子やテーブルを置いたり畳のふちに座って話ができるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人に応じて手すりを付けたり、入居時に自宅から家具や仏壇など持ち込み家具の配置を柔軟に変更できるようにしている	居室にはそれぞれ、テレビや雑誌、腕時計が置かれ、壁に家族の写真が貼られるなど、落ち着いて過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は本人に合わせて家具の配置換えを行い過ごしやすいようにしている。フロアでも物品の位置を考慮したり、時には席替えをしたりしている		